



THE UNIVERSITY OF TOKYO 130th

東京大学創立一三〇周年記念事業

知の プロムナード

ナビゲーションマップ



| **本郷** 地区キャンパス P2~P11

| **駒場I** キャンパス P12~P16

| **駒場II** キャンパス P17~P19

| **柏** キャンパス P20~P21

| **白金** キャンパス P22~P23

知のプロムナード

「東京大学アクション・プラン(研究成果を活用した知的プロムナード)」に掲げられているもので、創立130周年を記念して「本郷」、「駒場」、「柏」、「白金」の各地区キャンパスに、学生や教職員がくつろげる語らいの空間を設け、誇るべき歴史や研究成果を活用したストーリー性をもつ「知のプロムナード」として位置づけています。

「知のプロムナード」は、こんなコンセプトです。

- 学生や教職員はもとより来訪者をも含め、人々が東京大学における知的活動の足跡や、「今」について知ることができるようなモニュメントを設置していく。
- 人々が散策しながら、くつろぎ、語り合い、静かに思索できるようなキャンパスにしていく。



本郷 地区キャンパス

- 01 P 4
- 02 P 5
- 03 P 6
- 04 P 7
- 05 P 8
- 06 P 9
- 07 P 10
- 08 P 11





懐徳館



- 1 旧前田公爵邸(懐徳館)西洋館の基礎
- 2 総合研究博物館
- 3 東洋文化研究所玄関前獅子像
(平成20年度公開予定)
- 4 懐徳館(庭園内は期間限定)



総合研究博物館

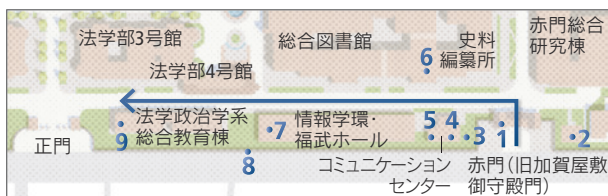
01

博物の道

懐徳門からの道は、右に総合研究博物館と東洋文化研究所が並び、異文化との交流に誘う。左には理学部の生物系や医学部の建物が対面し、我が国の生命をめぐる知の歴史を感じさせる。その先には東大の奥座敷ともいべき懐徳館のひっそりとしたたたずまいが見える。この道には、懐徳門付近のオリーブの樹など珍しい樹木も多く、懐徳館には、明治の姿をとどめる美しい日本庭園がある。



赤門(旧加賀屋敷御守殿門)



光電子増倍管

- 1 赤門(旧加賀屋敷御守殿門)、番所
- 2 史料編纂所倉庫
- 3 光電子増倍管
- 4 レゴブロックによる安田講堂(期間限定)
- 5 コミュニケーションセンター
- 6 明治新聞雑誌文庫
- 7 情報学環・福武ホール(平成20年3月完成予定)
- 8 クスノキ並木と堀
- 9 法学政治学系総合教育棟

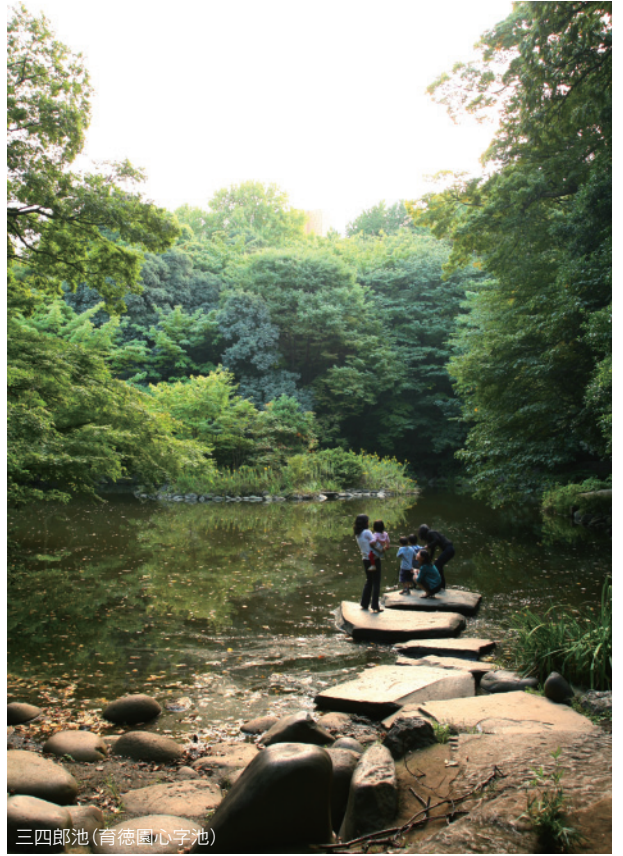
情報の道

02

赤門から正門に向けて左に進むと、知識やコミュニケーションにかかわりの深い施設群が並ぶ。赤門脇のコミュニケーションセンターは、東大と社会の出会いの場所であり、多様な東大グッズが販売されている。その先には「情報学環・福武ホール」が新たに建設され、情報をコアに東大が社会に開く窓となる。これに対面する史料編纂所、総合図書館、明治新聞雑誌文庫は、東大のなかの知のアーカイブ機能の中核をなす。



ポンプ跡



三四郎池(育徳園心字池)

- 1 三四郎池(育徳園心字池)
- 2 丘上の碑
- 3 山口青邨句碑、有馬朗人句碑
- 4 加賀百万石 前田家の至宝
(平成19年12月公開予定)
- 5 ポンプ跡
- 6 濱尾新像
- 7 ヒマラヤ杉由来碑
- 8 弓道場、七徳堂



03

歴史と緑の道

赤門に入って直進すると、正面には医学部本館が見え、その前庭は学生たちの憩いの広場となる。この前庭の左の坂道を降りると、樹木に囲まれた三四郎池畔に出る。この道は、かつて前田藩の姫や女官が通った道であり、三四郎池(育徳園心字池)は、本郷キャンパスのなかで最も自然が濃密に息づいている場所である。ここは小鳥のさえずりを聞きながらゆったりとした時間を過ごすオアシスで、池畔に沿って遊歩道を歩いていくと、都心にありながら江戸時代にタイムスリップした感覚を味わう。



正門



安田講堂



- 1 正門
- 2 工学部列品館
- 3 イチヨウ並木
- 4 安田講堂
- 5 工学部 2 号館
- 6 軍艦妙高の改正図 (平成19年12月公開予定)
- 7 小柴昌俊 東京大学特別栄誉教授 ノーベル賞記念碑
- 8 山川健次郎像
- 9 サイエンスギャラリー
- 10 パラメトロン式コンピューター PC-1 の部品

時計台の道

04

東京大学のメインストリート。明治末に正門が誕生してから大正末に安田講堂が寄付で建てられるまで、この一帯は、近代日本の発展と成熟を象徴するかのよう整備されてきた。そして工学部列品館をはじめ、シンメトリックに並ぶ建物群は、いずれも登録有形文化財に指定されている。秋にはイチョウ並木が見事に色づき、東大ならではの風景を出現させる。学徒出陣から大学紛争までの記憶と結びつく安田講堂前は、今では学生たちの憩う開放的な広場となっている。

- 1 総合図書館
- 2 文学部3号館
- 3 ケヤキ並木
- 4 ジョサイア・コンドル像
- 5 チャールズ・ウエスト像
- 6 蛇塚(おばけ燈籠)
- 7 大イチョウ
- 8 工学部1号館
- 9 古市公威像
- 10 三好晋六郎像
- 11 日本初の人工衛星「おおすみ」
- 12 ペンシルロケット(平成19年12月公開予定)
- 13 T lounge(工学部広報スペース)



総合図書館



大イチョウ



05

近代知の道

明治時代、本郷キャンパスの軸線をなしたのは、工学部1号館と総合図書館を結ぶこのルートであり、日本の近代的学問の発生の場ともいべき法・文・工・理各学部の校舎が並んでいた。かつての工科大学の前庭には大イチョウがそびえ、コンドルとウエストの像が対面する。大イチョウから総合図書館正面までまっすぐに見渡すことができ、この道の両端は広場になっている。安田講堂前の広場とともに、この2つの広場は本郷キャンパスにおける人の集まりのコアをなすものである。



エドワード・ダイヴァース像



附属病院のレリーフ



- 1 広報センター(旧夜間診療所)
- 2 レオポルド・ミュルレル像、
下山順一郎像
- 3 エルヴィン・ベルツ像、
ユリウス・スクリバ像
- 4 水原秋桜子句碑
- 5 ヒポクラテスの木
- 6 医学部博物館(平成20年度完成予定)
- 7 隈川宗雄像
- 8 解剖台(医学部本館東側ポーチ)
- 9 医学部本館
- 10 鉄門(相良知安先生記念碑・ベルツの庭石)
- 11 附属病院のレリーフ
- 12 青山胤通像、佐藤三吉像
- 13 御殿下記念館
- 14 理学部化学館
- 15 エドワード・ダイヴァース像

医薬の道

06

龍岡門から直進する道沿いには、医薬や物理の学問の偉人にかかわりの深い像や碑、建造物が多い。道の左側の広場には、ベルツやスクリバなど近代日本の医学の創始を支えた外国人教師の像が並び、附属病院の壁のレリーフを右手に見ながら、明治から現代までの建築が混在する研究棟群に至る。なかでも理学部化学館は、東大初のコンクリート造の建物である。またここは、御殿下記念館や運動場など、スポーツや健康にかかわりの深い施設も多い。



スタジオ



弥生講堂

- 1 農正門
- 2 農学資料館
- 3 上野英三郎像
一忠犬ハチ公の飼い主ー(農学資料館内)
- 4 弥生講堂
- 5 向陵碑
- 6 朱舜水碑
- 7 シイノキ



07

農の道

檜材の重厚な農正門を入ると、左に朱舜水碑、右手には木造で作られた弥生講堂があり、その奥に向陵碑が建っている。これらは弥生キャンパスが水戸藩中屋敷であったこと、その後、昭和10年までは第一高等学校の敷地であった歴史を物語っている。さらに進むと、東京大学の象徴であるイチヨウとともに緑陰の濃いマテバシイの植栽が目に入ってくる。かつて本郷台地を覆っていたであろうシイノキの植栽が独自の雰囲気醸し出し、土地とのつながりを大切にしつつ新しい地球環境時代の「知」を模索する姿勢がうかがえる道である。



武田先端知ビル



「弥生式土器発掘ゆかりの地」碑

- 1 「弥生式土器発掘ゆかりの地」碑
- 2 武田先端知ビル
- 3 方形周溝墓
- 4 「向岡記」碑(平成19年度公開予定)
- 5 弥生二丁目遺跡



遺跡と先端知の道

弥生門を出て少し歩くと浅野キャンパスに行きあたる。江戸時代、ここは水戸藩中屋敷で、浅野公爵邸を経て大学用地となった。武田先端知ビルのエントランスホールに置かれた「向岡記」碑は藩邸の頃の名残である。ビルのピロティには、ここにあった弥生時代の墓がパターン化されている。根津を見下ろす崖上に出ると弥生式土器の発掘跡が残っている。遺跡の痕跡が積層するこの場所は、建築や電気、原子力など戦後を象徴する理系学問の実験場となってきた。現在は情報分野など先端的研究の拠点が立ち上がっている。

駒場I キャンパス







- | | | |
|-----------------|----------------------|--------------------------|
| 1 汝自らを知れ | 6 蔵書印より (東京大学法理文三学部) | |
| 2 水晶宮 | 7 護国旗 | |
| 3 蔵書印より (開成学校) | 8 柏葉章 | |
| 4 蔵書印より (工部大学校) | 9 柏 | ※1~2 教養という言葉から連想される文章や意匠 |
| 5 蔵書印より (東京大学) | 10 橄欖 | ※7~10 第一高等学校ゆかりの紋章 |



イチヨウ並木



コミュニケーションプラザからイチヨウ並木を望む

09

教養の道

東西に走るイチヨウ並木を、教養学部を特徴づける道として、教養の道と名づけた。順路は決めていないので、西からでも東からでも自由に散策していただきたい。

教養の道には照明が埋め込まれている。照明には、教養という言葉から連想される文章と図案、東京大学の図書に押されている蔵書印、教養学部の前身の一つ第一高等学校で使われていた紋章が描かれている。



- 1 嘉納治五郎
- 2 プラトンとアリストテレス
- 3 身体の声、細胞の声
- 4 人間の体
- 5 先人の足跡
- 6 陸上競技場
- 7 池
- 8 武蔵野の雑木林

※2~5 身体と精神の関わりを象徴する意匠



池



野球場のしだれ桜

自然の道

10

イチョウ並木およびその延長を含んで、主として北に展開する散策路を、自然の道と名づけた。ここには、キャンパス東端の池、陸上競技場・サッカー場の外周の道、春には桜が美しい野球場周辺の土手、三昧堂周辺の雑木林などが含まれている。武蔵野の昔の姿をしのばせる木々の中には、23区内では珍しくなったものもある。ところどころに、湧水も枯れずに残っている。新たに設置された照明には、身体と精神の関わりを象徴する意匠などが描かれている。



- | | | |
|--------------|------------|------------|
| 1 矢内原公園 | 7 「一高前」への道 | 13 護国旗・弥生道 |
| 2 旧寮遺構 | 8 駒場 バラの小径 | 14 正門 |
| 3 旧倫理講堂 | 9 一高記念碑 | 15 理科系教室跡 |
| 4 明治天皇駒場野聖蹟碑 | 10 時計台 | 16 農学部の名残り |
| 5 外国人教師胸像 | 11 炊事門・柏蔭舎 | 17 旧図書館 |
| 6 駒場農学碑 | 12 旧特設高等科 | |



旧寮遺構のエントランスゲート



時計台(現1号館)

11 歴史の道

イチョウ並木およびその延長を含んで、主として南に展開する散策路を、歴史の道と名づけた。ここには、駒場コミュニケーションプラザ中庭の旧寮エントランスゲートや旧中寮柱跡、1号館・101号館・旧図書館(現駒場博物館)・講堂(900番教室)など第一高等学校の駒場移転時からある建物、第一高等学校石碑・駒場農学碑・第一高等学校外国人教師の像などのモニュメントが含まれている。



- 1 銅像「航空」
- 2 風洞実験室(1号館)
- 3 時計台(13号館)
- 4 試作工場(17号館)



銅像「航空」

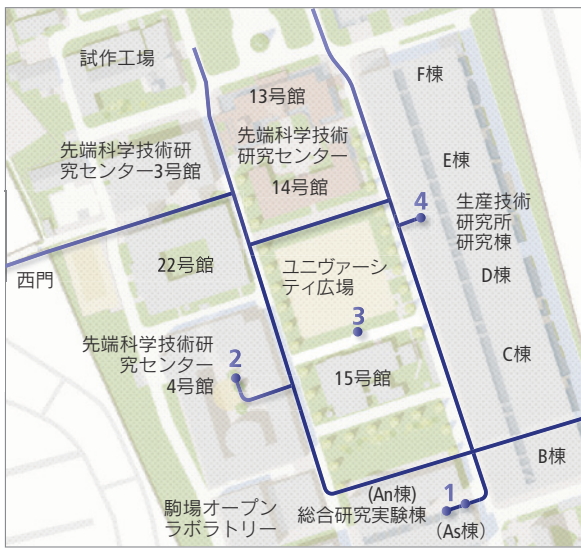


時計台(現13号館)

12

空への道

江戸時代、この地一帯は、将軍の御狩場として動物の捕獲と樹木の伐採は禁じられ、自然保護地区のごときであった。明治にいたり、本学農科大学の農場として開墾された。関東大震災を機に駒場での再建が図られた本学航空研究所が、昭和5年(1930年)移転を完了し、以後、日本の航空と宇宙開発の研究センターの役割を果たす。しかし、平成元年(1989年)、転出した。現在も残る航空研時代の時計台や風洞実験室などは、建築的にもすぐれ、日本の工学の発展を語る貴重な歴史遺産となっている。



- 1 生産技術研究所・海中ロボット「プテロア 150」、
先端科学技術研究センター・モニュメント(公開予定)
- 2 先端科学技術研究センター 4号館中庭
- 3 ユニヴァーシティ広場
- 4 生産技術研究所 E 棟ピロティ



ユニヴァーシティ広場全景



生産技術研究所ピロティ

未来への道

13

現在、“駒場Ⅱ”と呼ばれるこのキャンパスは、将軍御狩場、農場、航空研究所と変遷したが、宇宙航空研究所が本学を離れ転出したのを機に、順次、先端科学技術センター、生産技術研究所が集まり、本学の工学研究センターの性格を持つにいたる。日本の工学、技術は、これからも苦難と栄光の道を進むにちがいないが、この地でまかれた種は、これからも世界で花開き、実を結ぶだろう。



Gustoff
(ガストフ)

創立130周年記念事業
キャラクター募集入選作品
作:宮崎彩さん





柏キャンパス



けやき並木

※1~13(平成20年1月公開予定)
 ※1~6, 9, 12, 13 学融合の道(けやき並木)には、
 パネルのみが設置されている。

- 1 新領域環境棟のパネル
- 2 新領域生命棟のパネル
- 3 平賀謙文書とデジタルアーカイブ
- 4 飴のように延びる超塑性セラミックス
- 5 超臨界水酸化反応容器
- 6 核断熱冷却用銅ブロック
- 7 超高圧実験用プレス
- 8 世界最強のマグネットコイル
- 9 宇宙線の発生場所: 超新星残骸・銀河中心
- 10 宇宙線望遠鏡
- 11 ニュートリノ振動の発見
- 12 気候モデルの発展の歴史
- 13 空間情報科学研究センター、人工物工学研究センター、
 高温プラズマ研究センターのパネル

学融合の道 (けやき並木)

14

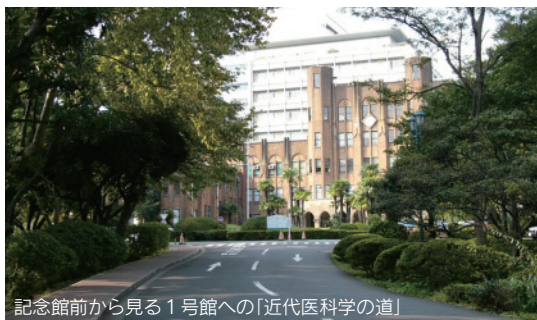
東京大学の三極構造の一翼を担う柏キャンパスでは、知の冒険をテーマに、学融合による新たな学問創成や学問の深化を進めている。その中心に位置する学融合の道(けやき並木)では、キャンパス内で行われている研究分野の一端を、モニュメントやパネルによって垣間見ることができる。並木のけやきが育った暁には、緑陰のもと、ゆったりとした空間の中で、宇宙スケールからナノスケールまで、壮大で多様な知について語らい、さらに新たな学問が創成される。

白金 キャンパス





近代医科学記念館



記念館前から見る1号館への「近代医科学の道」

- 1 近代医科学記念館
- 2 緑豊かな緑地帯
- 3 1号館
- 4 動物慰霊碑
- 5 桜並木
- 6 2号館

近代医科学の道

目黒通りに面した表門を抜けると静かな空気に包まれる。左手には赤茶色のレンガを使用し、伝染病研究所時代の厩舎を模した「近代医科学記念館」、右側には自然豊かな緑地帯がある。樹齢を重ね緑を湛える木々を左右に見ながら進むと、正面にゴシック建築様式で時計台の1号館、さらに左手に進むと松林と桜並木が連なり、その後方には2号館、そのまま西門を抜けると外苑西通り(通称プラチナ通り)に出ることができる。

15

知のプロムナード ナビゲーション・マップ

編集・発行：東京大学創立130周年記念事業実施委員会
知のプロムナード小委員会

発行日：2007年11月

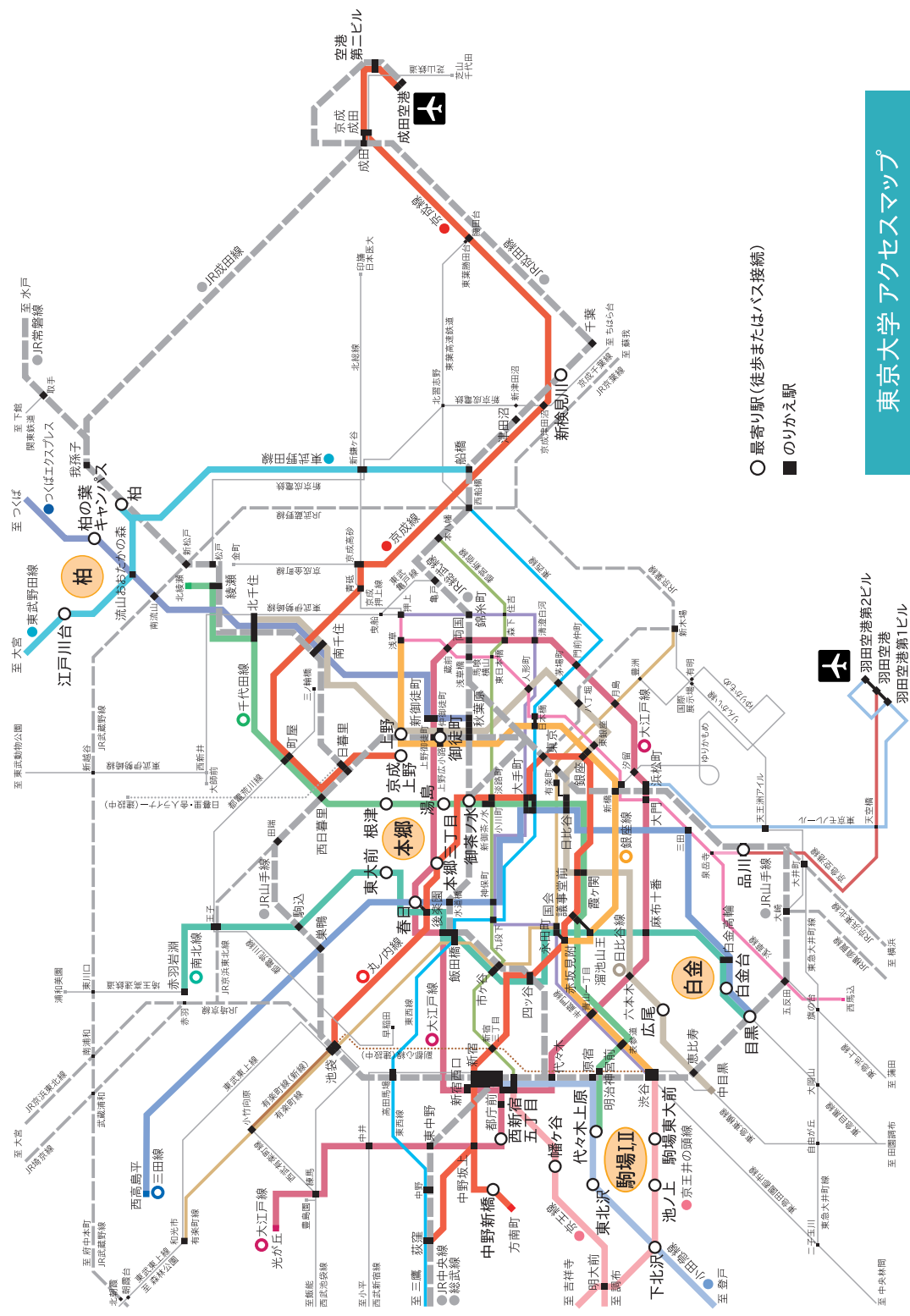
〒113-8654
東京都文京区本郷7丁目3番1号
03-3811-3393
www.u-tokyo.ac.jp

AD. & D. 黎^{れい}デザイン総合計画研究所

光電子増倍管

光電子増倍管は微弱光を捉えることができる高感度光検出器です。口径が大きいほどより弱い光まで検出することができます。このため、カミオカンデ実験に際して50cmという大口径のものが1981年頃、研究者と協同して浜松テレビ（現浜松ホトニクス）によって開発されました。この装置を用いて、小柴昌俊教授（現東京大学特別荣誉教授）は1987年2月、超新星ニュートリノの観測に世界で初めて成功し、「素粒子ニュートリノの観測による新しい天文学の開拓」により2002年ノーベル物理学賞を受賞されました。その後、1990年代に改良が施され、時間分解能や光子検出効率が向上し、現在のスーパーカミオカンデに使用されています。





○ 最寄り駅(徒歩またはバス接続)
 ■ のりかえ駅

東京大学 アクセスマップ



羽田空港第2ビル
 羽田空港
 羽田空港第1ビル

